

## 第32回特別展

# 手塚治虫展



※この図録は現在当館では扱っておりません。

平成元年2月惜しまれつつ60歳で逝った手塚治虫は、「イメージ思想家」ともいうべき、わが国が世界に誇る天才的マンガ家でした。彼の制作の根底には常に同じテーマが秘められていたようです。人間存在の問題、つまり人間とは何か、なぜ愛しあい憎しみあい、かくも愛しくかくも愚かなのか、という普遍的な問いかけであったと思われます。その一方で、人間に対する信頼や希望が顔を覗かせています。

本展では、彼が生涯かけて描いた15万ページの原画のなかから1500ページを厳選して展示すると同時に、生前愛用した品や、神戸ユニバーシアード、フェスピック神戸大会のマスコット・マークの原画などを集め展示しました。

会期／平成2年10月6日（土）～11月12日（月）

会場／特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2

主催／神戸市立博物館、東京国立近代美術館、朝日新聞社、日本雑誌協会

企画協力／手塚プロダクション

協力／日本漫画家協会

協賛／NEC日本電気グループ

開館日数／32日

入館者数／58, 300人

出品件数／原画1500ページと手塚治虫関連資料約100点